

教育支援のためのFDワークショップ(第7回) ～授業デザインワークショップ⑤～

日時：2009年1月30日(金曜) 13:00～16:10

場所：全学共通教育棟 81B 教室

授業をデザインする際に、さまざまな工夫を取り入れている学内外の授業事例を紹介し、それらの事例に学び、互いに授業内容を高めていくための意見交換をする場として、授業デザインワークショップを開催します。今年度2回目、通算5回目の今回第1部では、文学研究科の小田中章浩先生を事例提供者に、レポートの書き方指導・プレゼン指導を行う授業での課題提出システムの利用とその効果について検討したいと思います。第2部は、前回に引き続き大学教育研究センターの大久保敦先生に事例提供をいただき、多人数でも実習や演習をおこなう授業デザインのあり方や可能性について検討したいと思います。お忙しいなかではありますが、みなさまふるってご参加ください。

【第1部】13:00～14:30

レポートの書き方やプレゼンの指導が必要な授業における 課題提出システムの利用とその効果

事例提供者：小田中 章浩（文学研究科）

【第1部内容骨子】

レポートの書き方やプレゼンの技法といった、大学で学ぶための基本的な技法の指導を必要とする授業の場合（例えば「1回生セミナー」など）、教員にとって大きな問題の一つとなるのが、時間管理である。なぜなら学生が取り組むレポート作成やプレゼンの準備が講義時間内で終わることはまず考えられず、課題の多くは宿題となるからである。この場合、教員がこれらの課題を添削するために必要な時間と、学生が課題を作成するために必要な時間は、互いに相反する関係にある。前者を長くすれば後者が圧迫され、逆もまた然りだからである。こうした問題を解決するための方策の一つが、インターネットを利用した課題提出システムの利用である。今回の報告では、私（小田中）が業者に細かな仕様を要求して完成させた i-sys を「1回生セミナー」で用いることによって、どのような教育上の成果が達成できたかについて検討してみたい。

【第2部】14:40～16:10

多人数に対応した授業をデザインする(その2)

―大学の授業に演習実験、ディベート、観察実習を導入する―

事例提供者：大久保 敦（大学教育研究センター）

【第2部内容骨子】

11月のワークショップでは、200名以上の多人数に対応した植物野外観察実習の事例を報告いたしました。その際のフリーディスカッションにおいて、授業での演習実験やディベートなどの扱いについて話題になりました。そこで、今回は多人数授業において演習実験、ディベート、観察実習など、学生が能動的に授業に参加するための各種アプローチを、全学共通教育総合教育科目B「森林環境と人間社会」での授業実践例を紹介するとともに、この様なアプローチの一般化や共有化の可能性について意見交換を行いたいと思います。

※なお、当日参加も歓迎いたしますが、ご参加いただける場合、会場や資料準備の都合上、できれば1月28日(水)までに、大学教育研究センター(center@rdhe.osaka-cu.ac.jp)宛に、ご所属とお名前・ご連絡先をご連絡ください。

以上

主催：大学教育研究センター

【コーディネーター：【第1部】西垣順子
【第2部】飯吉弘子】